

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

March 2023 vol.107



◆ 鋤神明宮（土地改良碑）

所在地：西尾市岡島町

交通：名鉄西尾線「西尾口」駅 東約 3.7km

昭和 19(1944) 年の昭和東南海地震、昭和 20(1945) 年の三河地震では、西尾市や安城市など岡崎平野で、強い揺れにより大きな被害が発生しました。田畑へ水を引き込むために敷設されていた用排水路などの農業用施設も大きな被害を受け、地震の後、その復旧のために、各地で土地改良区が設立され、土地改良法による土地改良事業が進められました。西尾市岡島町の鋤神明宮には、三和土地改良区の土地改良事業の完成を記念した土地改良碑があります。碑文（下記、意訳）からは、農業用施設などの地震による被害からの復旧復興の経緯を読み取ることができます。

三河地震の震源のひとつとされる横須賀断層の延長線上のこの地域では、死者 277 人、全半壊家屋は 2,300 棟余りに及び、耕地は 0.7m から 2.0m も沈下、江原町蓮池新田から鋤神明宮のある岡島町を経て、高河原町上野に向かって用排水路も大きな被害を受け、その機能を失いました。当時は太平洋戦争末期であり、被害甚大と認められながら救援の手は差し伸べられず、復旧は地域の力に委ねられました。こうしたことから、地元有志により土地改良法による区画整理事業が立案され、関係者の同意を求めため連日地区ごとに会議を重ね、村当局の援助も受けて議がまとまり発足することとなった折、昭和 24 年度の国費補助による高潮災害事業としての認証を受け、工事が始まりました。

工事内容は、洪水期における耕地の迅速な湛水排除のための排水機 2 台の新設、基幹排水路 2 線の練石積護岸工な

どの土地改良施設整備と、地震で荒れた耕地をならすための土入れなどの耕地復旧で、総工費 1 億円余りが投入されました。また、工事中には、岡島町を始め周辺の 9 町 1 村を地区とする耕地面積 457 町（約 450ha）、組合員数 600 名余りの三和土地改良区が設立され、工費 3,800 万円余りを投じ、道路、用排水、橋梁、畑地移動、護岸工などの事業が、国費補助事業として施行されました。

工事の完成により、地区内の耕地は美しい姿を取り戻し、集団化や機械化、畜力利用等の進歩的営農により発展を遂げます。その後、地盤変動対策事業なども行われ、昭和 32 年 3 月、当初の事業目的の達成に目途が立ったことから、地区中央部の岡島町地内、鋤神明宮に土地改良碑が建設されました。碑文は昭和期の政治家で法務大臣も務めた、愛知県土地改良協会長の中垣国男、題字は農林大臣の井出一太郎によるものです。

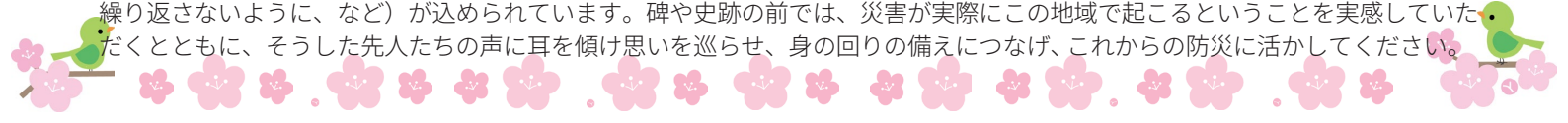
鋤神明宮から少し南の室場地区にも、室場区土地改良碑があります。室場区土地改良碑の碑文も、鋤神明宮の改良碑と同様に、地域の力で復旧復興を成し遂げるために有志で改良区を設立し、土地改良事業を実施、その完成を記念して土地改良記念碑を建立した旨が記されています。このように、震災の後、各地の土地改良区で復旧復興事業が執り行われ、その完成を記念し建設された土地改良碑が、当時の人々の努力をいまに伝えています。



(上) 鋤神明宮の土地改良碑
(下) 室場区の土地改良碑



◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していただくとともに、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。



◆ 見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち バックナンバーから

● 春日神社 (vol.28,2016.8)

所在地：西尾市上横須賀町

交通：名鉄西尾線「上横須賀」駅北東約100m

昭和20(1945)年の三河地震で、幡豆郡横須賀村(現在の西尾市南部)は震度7の激震に襲われ、碧海郡明治村(現在の安城市南部・碧南市東部・西尾市北部)の325名に次ぐ、275名の死者を出しました。

上横須賀町の春日神社には、三河地震で犠牲になった氏子を供養するための、三河大地震之碑が建てられています。前述のように横須賀村の被害はひどく、春日神社の氏子だけでも130人が犠牲になったことが碑文に記されており、また背面には福泉寺門前にてお湯が噴き出すと記され、液状化現象が発生していたと思われる記述も見られます。

石碑の前の解説のモニュメントには、「ころは 昭和の二十年 ときは 一月十三日 突如 襲いし 大地震 夜

半の夢は 破れたり 立つに能わず 這えもせず 倒れし 家のその下に あわれ 帰らぬ人の数 百三十余に及びたり 折しも 戦の最中とて 家を失い 物もなく 読經 手向くる僧もなく 野辺の送りのあわれなり 星霜移りし 三十余 恵みの陰にわれら生く 今ぞ こたえん神佛 ここに印さん 後の世に」とあり、大地震の際の様子や、残された者の意志として、犠牲者を慰霊し大地震の教訓を後世に伝えることが記されています。

三河地震の慰霊碑や復興碑などの遺構は、確認されているものだけで40件に及びますが、そのほとんどが、被害の大きかった深溝一横須賀断層の近傍や安城市から西尾市にかけての岡崎平野一帯に存在しています。



◆ 詳細は、見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち vol.28 (<https://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/rekishijishin/geppo.html>) をご覧ください。

★ 西尾六万石桜まつり

名鉄西尾駅西側、西尾市の中心地を流れるみどり川では、神下橋から五條橋までの700mに約250本のソメイヨシノが咲き誇ります。西尾六万石桜まつりは、毎年桜の季節に、みどり川の桜並木を中心に開催されます。(2023年は3月18日(土)から4月9日(日))

みどり川会場では、4月2日に、みどり川屋台村が出店、ジャズバンドや和太鼓の演奏、バルーンショーなども行われます。歴史公園会場では、4月1日、2日におしるマルシェが開催され、本町会場では、4月2日に本町BINGOなどのイベントが開催されます。期間中はみどり川沿いでライトアップも行われ(午後6時から午後9時)、ぼんぼりに灯りがともった幻想的な雰囲気を楽しむことができます。



～鉄道で巡る～

にしがま線(名鉄西尾・蒲郡線)は、名鉄西尾駅から吉良吉田駅を経て、蒲郡駅までの13駅を走る鉄道路線で、路線存続の取組が行われています。

吉良吉田・西幡豆・東幡豆・西浦・形原の各駅には、街を楽しく散歩できるガイドマップが置かれ、レンタサイクル・にしがま号でサイクリングも楽しめます。竹島水族館などの沿線施設とコラボしたキャンペーンや、名鉄のフリーきっぷと連携した企画も実施されています。

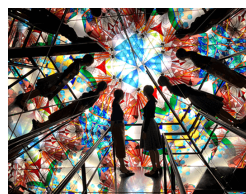


● プレイクタイム ●

♪ 三河工芸ガラス美術館

三河工芸ガラス美術館は、60点ほどのガラス作品が集められたユニークなアート空間です。2000年に当時のギネスに認定された巨大万華鏡スフィアは、3基のスタンドグラスがモーターで回り、54枚もの鏡に模様が映し出され、万華鏡の中に入って、インパクトのある写真を撮影できます。

身近なガラスアートを紹介する生活とガラスアート館や、体験教室などもあり、2018年からは、館内のスマホ撮影が可能になって、フォトジェニックなスポットとしても人気を集めています。



三河工芸ガラス美術館HPより

◆ この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆ この地域の歴史災害記録をオンラインツアー形式、マップ形式で紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『災とSeeing』のホームページ (<https://www.saitoseeing2020.jp/>) をぜひご覧ください。

(発行：減齋の会・名古屋大学減災連携研究センター 2023年3月)